

[研究ノート]

ジャワ農村の地方自治に関する調査ノート

—ジョクジャカルタ特別州バントウル県ジュティス郡チャンデン村の事例—

黒 柳 晴 夫

1. はじめに

本報告の調査村チャンデン村 (Desa Candan) があるジョクジャカルタ特別州 (Daerah Istimewa Yogyakarta) バントウル県 (Kabupaten Bantul) は、州都ジョクジャカルタ市の南側にインド洋に面して位置し、ムラピ (Merapi) 火山を源にしたプロゴ川 (Kali Progo)、オパック川 (Kali Opak) の両河川に挟まれた火山灰の肥沃土に恵

まれた平坦な水田稲作地帯をなしている。調査地は、ジョクジャカルタ市内の王宮からほぼ南に直線で 12 km のところに位置するジュティス郡 (Kecamatan Jetis) チャンデン村にある 15 部落の一つプレンプータン部落 (Dukuh Plembutan) である。チャンデン村の面積は 5.36 km² で、表 1 に示すように現在ここに 3,816 世帯、13,726 人が住んでおり、人口密度は 2,560.8 人 / km² に達している。プレンプータン部落は、村内 15 部落のうち 4 番目の世帯数を擁する部落で、表 2 に示すように (調査時点が異なり、表 1 と数値が一致

表 1 チャンデン村部落別世帯数・人口数

No.	部落名	世帯数 (戸)	男 (人)	女 (人)	合計人口 (人)
1	Banyudono	283	492	528	1,020
2	Beran	268	423	492	915
3	Canden	390	630	655	1,285
4	Gadungan Kepuh	212	362	387	749
5	Gadungan Pasar	165	312	341	653
6	Gaten	181	280	313	593
7	Jayan	159	292	298	590
8	Kiringan	260	482	504	986
9	Kralas	332	588	616	1,204
10	Ngibikan	280	512	577	1,089
11	Plembutan	294	503	534	1,037
12	Pulokadang	315	561	555	1,116
13	Suren Kulon	210	378	410	788
14	Suren Wetan	277	497	552	1,049
15	Wonolopo	190	311	341	652
合 計		3,816	6,623	7,103	13,726

(資料) チャンデン村住民台帳より作成。

表2 チャンデン村プレンプータン部落組別世帯数・人口数

組No	世帯数	人口数	組長名	組長生年月日
1	78 (戸)	215 (人)	Sudarmaji	1943/6/23
2	47	127	Subagyohadi	1968/5/30
3	61	196	Sukamto	1967/11/10
4	47	131	Supriyanto	1967/7/15
5	42	121	Tumarjo	?
合計	275	790		

(資料) 中部ジャワ地震直後の2006年6月初め、村が被災調査を実施した際の世帯表による。

しないが) 部落内は5つの隣組エル・テー (RT: Rukun Tetangga) に分かれている。村の東側をオパック川が流れ、灌漑用水にも恵まれているため、人びとの生業は水田稲作農業が中心となっているが、近年はジョクジャカルタ市内の事業所や商店などに通勤している人も増えている。

以下は、チャンデン村、なかでもプレンプータン部落を中心に2009年8月27・30日、2010年8月27・28・29・30・31日、2011年3月5・7日に行った聴き取り調査の聴取内容の記録である。これは、これまで論文にまとめてこなかった内容の部分で、共同研究者の間で聴取内容を共有する目的も果たすためにまとめたものである。そのため、時間の経過や調査の経緯が分かるように記述してある。記述した聴取内容には、聴取した人や時期によって一部に矛盾したり異なったりしているところがあるが、あえてそのまま掲載したことを断っておく。

2. チャンデン村の行政組織および各種組織

—2009年8月27日(木)(晴れ)聴取—

今回の調査は、カウンターパートの Gadjah Mada 大学地理学部助教授兼人口政策研究所研究員の Sukamdi がオランダに出張中のため、かれの事前の指示で同研究所助手の Joko と Umi およ

び同研究所のアルバイト調査員 Fajar が協力してくれることになった。かれら3人は、Sukamdi の指導を受けた地理学部の卒業生である。

インドネシアは、8月22日(土)からイスラム暦第9月の Ramadan に入り、ムスリムはこの月の間断食 (Puasa) を行う。そのため、調査で滞在中は断食月と重なるため、われわれに同行してくれる調査協力者と運転手、そして村の人びとは昼間何も口にしないので、調査中は基本的にわれわれもこれに従うことにした。そのため、われわれは朝食のバイキングでしっかり食べるように心掛けた。

予定の8:30に、チャンデン村 (Desa Canden) 役場に向けて出発する。大学正門を出てそのまま南下し、市内中心部の住宅密集地を通り抜け Kraton (王宮) 東側の遊園地前の道路を通って Parangtritis 道路に入る。Parangtritis 道路は、インド洋に面した王宮の儀礼施設がある観光地の Parangtritis 海岸に向かう道路である。朝の通勤・通学のピーク時はすでに過ぎていたが、Parangtritis 道路は市内に向かう人びとのオートバイやミニバス等で込んでいた。ジョクジャカルタ市内南側を走る環状道路を越えて南下し、王宮から約12kmのところまで直角に左折して王宮墓所で知られた Imogiri 方面に向かう道路に入る。そこを約1.5km進んで直角に右折して田圃のなかの道路を2km弱南下すると、左前方にチャン

デン中学校の平屋（一部2階建て）の校舎が目に入ってきた。その南側に並んでいるのがチャンデン村役場である。

9:20頃にそのチャンデン村役場に到着した。Fajarに村長に面談できるか確認してもらう。林大造は、勤務先の神戸大学防災安全研究所のジャワ地震調査研究で、村役場には以前に何度か訪ねたことがあり、村長にも面識がある。朝は村人の相談や手続きの訪問客が多い時間帯で、村長はその対応に忙しそうであったが、その時間を割いてわれわれの聴き取りに応じてくれるとのこと、早速正面の村長の執務している部屋に入る。とはいっても、平屋の役場（36m×8m）には村長の執務室の他にはその両側に事務室が大小計10部屋あるだけである。

1. チャンデン村村長 Supanto の聴取

(9:20~9:45)

村長 (Lurah) の Supanto は、現在 57 歳で、州職を定年になった年の 2008 年 4 月 5 日村長に選出され、就任 1 期目である。選出される前は、ジョクジャカルタ特別州の職員で、定年直前まで州知事の議定書の作成や儀礼担当のプロトコルの職務を担当していた。ちなみに公務員の定年は、一般職員は 55 歳、教員は校長を頂点とした職名のランクによって 55~60 歳、大学教員や研究所研究員は教授などを頂点とした職名のランクによって 55~65 歳、また現職公務員の研修・教育機関の教員である Widyaishwara も職名のランクによって 55~65 歳となっている。

現行の村落行政にかかわる制度は、1999 年の地方行政法の制定および 2004 年の同法一部改正によっているが、村長の任期は 6 年で、再選は 1 回まで認められている。村長の下で村落行政の職務に従事する Canden 村の役場職員 (Pamong Desa) は、村長と 15 名の部落長を含めて全部で 32 名 (34 名の枠があり、現在 2 名の欠員) おり、表 3 に示すようにそれぞれ手当として村の小作地

を当てた役職田を給されている。

役場の組織は、村長の補佐をする書記の他に 5 つの係に分かれている。それぞれの担当者は、書記 (Carik Desa) は Mashudi、財政 (Keuangan) は Subagyo、行政 (Pemerintahan) は Suroso、開発 (Pembangunan) は Bambang Suryadi、宗教・住民福祉 (Agama & Kesejahteraan Rakyat) は Badiman (大卒)、総務 (Umum) (サービス (Pelayanan) とともに書いてあった) は女性の Sudiriyantini である。2009 年の村の予算総額は 395,000,000 ルピア (Rp) で、その内容は通常経費と開発費とで全てを占めている。村単独の原資として村有田の小作料 (Tanah Kas Desa) が僅かながらあるが、予算のほとんどは県からの配分金である。

1999 年の地方行政法の制定後、旧制度の村落協議会 (LMD: Lembaga Musyawarah Desa) に代わって村落議会 (BPD: Badan Perwakilan Desa) が置かれることになった。前者の協議員は 13 人であったが、現行の村落議会の議員は 9 人となった。新制度で選出された最初の議員である現在の議員は 2002 年 2 月の選挙で選出されたもので、議員の任期は 1 期 10 年である。議員の被選挙権者になるには幾つかの要件をみたさなければならないが、たとえば、年齢が 60 歳以下、学歴が中学校卒業以上であることなどもその要件に含まれる。村落議会には事務担当者として村落議会書記 (Kepala Urgan Tata Usaha BPD) が置かれ、村落職員の 1 人が専従でこれにあたる。村落議会の基本的な役割は、①村長の政策の承認、条例の制定、②予算の議決、③村政の監視の 3 つである。

村内の住民が参加する各種の組織には、農業振興や農業技術の改善と普及のための農家グループ連合 (Golongan Kelompok Tani)、人口抑制や家族福祉向上などのプログラムを実施する婦人会ペカーカー (PKK: Pembinaan Kesejahteraan Keluarga) および隣組エル・テー (RT: Rukun Tetangga) における PKK の下位婦人組織のダ

表3 チャンデン村村長・村職員の役職田

No.	名 前	職 名	圃場数	面積 (ha)
1	Supanto, SE	村長	5	3.9775
2	Mashuci, BA	書記	4	2.5855
3	Suroso	行政係	2	2.6480
4	Subagyo	財政係	4	2.6795
5	Bambang Suryadi	開発係	4	2.5700
6	Badiman (大卒)	宗教・住民福祉係	3	2.2000
7	Sudiriyantini (女)	総務係	3	1.5500
8	Budiyono	Gadungan Kepuh部落長	3	1.0000
9	Arif Winarto	Gadungan Pasar部落長	2	1.0000
10	Saryanto	Jayan部落長	3	1.0000
11	Rohgiyanto	Wonolopo部落長	3	1.0000
12	Sudiyatmi (大卒)	Kiringan部落長	2	1.0000
13	Suharyanto	Ngibikan部落長	6	1.0000
14	Nursyamsu	Banyudono部落長	2	1.0000
15	R. Agung Sudarto	Suren Kulon部落長	5	1.0000
16	Sukarjo	Suren Wetan部落長	2	1.0000
17	Rohmuji	Gaten部落長	3	1.0000
18	Ngatman	Beran部落長	2	1.0000
19	Sumardiono	Plembutan部落長	3	1.0335
20	Sri Endang Sujati (女)	Canden部落長	3	1.3050
21	Saring	Kralas部落長	5	1.2700
22	Sukardi	Pulokadang部落長	4	1.1100
23	Sunaryo (大卒)	村落議会書記	1	1.0000
24	Sugiyono	開発係	4	1.0000
	Suhardi (定年)	行政係	3	1.0000
25	Subadi	財政係	2	1.0000
26	Muslikah (女)	職員	2	0.4000
27	Munadi	職員	2	0.4000
28	Kabono	職員	2	0.4000
29	Tutik Sunarti (女)	職員	2	0.4000
30	Sardi	職員	2	0.4000
31	Samijo	職員	3	0.4000
32	Lastri (女)	職員		
合 計			96	40.3290

(資料) チャンデン村役職田用小作地一覧 (Rincian Tanah Kas Desa untuk Tanah Lungguh) による。村長は2008年に就任。2009年時点。

サ・ウイスマ (Dasa Wisma)、少産少死のための育児改善と母子保健改善のためのプログラムを実施する組織のポスマンドゥー (Posyandu: Pos Pelayanan Terpadu)、近隣地区内の夜間防犯警備のプログラムを実施する組織のシスカムリン

(Siskamling: Sistem Keamanan Lingkungan)、若者の健全育成と社会貢献を推進するための青年組織のカラン・タルナ (Karang Taruna)、などのスハルト体制の時に作られた組織がいまもある。その他、イスラム教関係のナフダトゥル・ウラマ

(NU: Nahdatul Ulama) とムハマディヤ (Muhammadiyah) の組織もある。また、政党組織の末端も村内には3つある。それらは、闘争民主党 (PDIP: Partai Demokrasi Indonesia Perjuangan)、国民民主党 (PDK: Partai Demokrasi Kebangsaan)、ゴルカル (Partai Golkar: Partai Golongan Karya) の3党で、いずれもイスラム系ではない政党である。

チャンデン村村長の聴き取りは、村長が多忙なこともあり、僅かな時間しかできなかった。そのため、村長には関係資料の複写等をお願いし、村内全世帯の住民台帳の複写をさせてもらった。この住民台帳資料には、世帯ごとに世帯構成員全員の①世帯番号、②個人番号、③名前、④性別、⑤出生県名、⑥生年月日、⑦血液型 (ほとんど記入なし)、⑧宗教、⑨未既婚別、⑩続柄、⑪学歴、⑫職業、⑬母親名、⑭父親名、⑮障害者、などに関する内容が掲載されている。

《同席した調査助手 Fajar による上記 Canden 村村長 Supanto の聴取メモ》

(1) 村落議会について

BPD (Badan Perwakilan Desa: 村落議会) と BPD (Badan Permusyawaratan Desa: 村落協議会)

以前は議員数は13人だったが、旧BPD (村落議会) から新BPD (村落協議会) に移行した時に11人になった。選挙区 (Distrik) は、1選挙区が3部落で編成されている。Canden村は15部落から構成されているので、選挙区は5つに分かれている。選挙が行われたのは2002年2月。任期 (Jabatan) は10年。

村落議会の主な役割 (機能 Fungsi) は3つ。

- ① 条例の制定 (Legislasi & Menyusun Peraturan Desa)。
 - ② 予算の作成・承認 (Anggaran)。
 - ③ 村政府の監視 (Pengawasan)。
- この機能はBantul県ではまだ実施されている。

Canden村の選挙区は、次のように3部落の組み合わせによる5選挙区で編成されている。

1. Pulokadang/Karalas/Canden
2. Plembutan/Beran/Suren Wetan
3. Suren Kulon/Banyudono/Ngibikan
4. Kiringan/Wonolopo/Jayan
5. Gadungan Kepuh/Gadungan Passar/Gaten

BPD (Badan Perwakilan Desa) では村落議会議員は直接選挙された。しかし、BPD (Badan Permusyawaratan Desa: 村落協議会) では、今後各部落が代表者 (Wakil) を選出し、その委員会の

表4 現村落議会議員と出身部落

1. 議長 ketua	Tohayadi	Ngidikan部落在住
2. 副議長 wakil ketua	Basar	Gadungan kepok (前は現村長が議員だった)
3. 書記 sekretaris	Sunarjo	Canden
4. 議員 anggota	Ponijan	Pulo Kadang
5. 議員 anggota	Kahno	Kralas
6. 議員 anggota	Totok Subroto	Plembutan
7. 議員 anggota	Rajiman	Suren Wetan
8. 議員 anggota	Buchori	Kiringan
9. 議員 anggota	Sudaryanto	Kiringan
10. 議員 anggota	Sonhaji	Gadengan Pasar
11. 議員 anggota	Husen Yahya	Seren Kuron
議会書記 KTU BPD (Kepala Tata Usaha BPD: 村落議会活動組織長) Drs. Sunarjo		

なかで選ばれて BPD 議員になる。

議員の要件

- ・年齢の上限 65 歳。
- ・社会から有能者とみなされている人 (Tokoh yang dianggap oleh masyarakat)。
- ・学歴が中学校 (SMP) 卒以上。
- ・Pancasila と 1945 憲法を遵守すること。

BPD 議員には、県政府からの議員手当 (Tunjangan Kehormatan) がある。

BPD 書記は Kepala Bagian と同等の職位 (Secretariat BPD Setingkat Kepala Bagian)。

(2) Canden 村の開発予算 (Anggaran Pembangunan)

村の開発予算は 395,000,000 ルピア。予算の主な構成は、経常費使用 (Penggunaan Belanja Rutin) と開発費。予算の年度は 1998 年度から 1 月から 12 月の 1 年間に変更された。

(3) 村の組織

- ・農家実行グループ (GAPOKTAN → Kelompok Tani)
- ・婦人会 (PKK 部落ごとに)
- ・PKK の長: PKK (Pembinaan Kesejahteraan Keluarga) を動かす人 → 村長の妻
- ・Posyandu (Pos Pelayanan Terpadu)
- ・青年団 (Karang Taruna)

(4) 村内の政党

- ・PDI-P ・Partai Demokrat
- ・Golkar

2. 前チャンデン村プレンプータン部落住民 Daridjo の聴取 (11:40~13:00)

村長の聴き取りが終わったときに、村長執務室の前でわれわれの訪問に興味を示した男性がいた。聞くと、名前を Darijo といい、われわれの調査対象部落の一つであるプレンプータン部落 (Dukuh Plembutan) に住んでいたが、2008 年に同じジュティス郡 (Kecamatan Jetis) 内にあるトゥリムルヨ村 (Desa Trimulyo) に転居したと

のことであった。Darijo は、前住地であるチャンデン村役場に書類の申請のために来たようであった。現在は公務員を定年になって時間のゆとりがあるようなので、われわれのチャンデン村の農村調査目的を伝えるとともに、できれば訪ねたい旨を伝える。

役場での聴き取りを続けることができなかったことに加えて、村のなかでも目当てのインフォーマントに会えなかったため、結局 Darijo を訪ねることにし、かれの自宅に向かう。かれの住んでいるトゥリムルヨ村は、ジュティス郡内 4 ヶ村の一つで、チャンデン村の北に隣接するスンプラゲン (Sumberagung) 村のさらに北側に位置する村である。かれの家は、ジョクジャカルタ市内から出てグヌンキドル県 (Kabupaten Gunungkidul) に通じる幹線道路のイモギリ (Imogiri) 街道沿いの交差点に面していて分かり易く、途中で一回付近の住民に尋ねただけで約 7 km の道のりを走ってかれの家に着くことができた。かれもすでに帰宅していて、快く自宅正面の応接間兼居間に迎え入れてくれ 11:40~13:00 聴き取りをした。訪問が昼の時間と重なったが、断食の最中で昼食時間に配慮する必要がないので、かえって有り難かった。断食中であるため、来客であるわれわれにも茶菓はだされなかった。

Darijo は、上に記したように 2008 年にチャンデン村プレンプータン部落から現在のトゥリムルヨ村トゥランバル部落 (Dukuh Trambaru) に引越してきた。かれは、1951 年 7 月 9 日にスルタンのハムンクブラノ (Hamengkubuwono) 家の霊廟があるイモギリ村で生まれ、現在 59 歳である。地元の小学校、中学校を卒業し、1969 年 7 月に高等学校に入学し、1972 年 6 月に同校を卒業した。そして、1975 年 12 月にバントウル県庁に就職し、県職員になった 1975 年から 1981 年まで郡役所 (役所名未確認) に勤務し、ついで 1981 年から 1987 年まではジュティス郡役所の北東に隣接するプレレット (Pleret) 郡役所に勤務した。そし

て、1987年に県庁本庁の総務課勤務となって1998年まで勤務し、その後1998年から県庁の別な部署の勤務となり2007年に定年を迎えた。

子どもは4人であったが、うち1人(男児)は生後7ヶ月で死亡し、また娘は2004年のスマトラ沖地震でアチェの津波被害にあって29歳で死亡したため、現在は息子2人が健在である。また、この間に、1985年にイモギリからチャンデン村プレンプータン部落に転居した。プレンプータン部落ではRT第5組に所属したが、この組では組長(Kepala)、書記(Sekretaris)、会計(Bendahara)の選出は、組の寄り合いの席で役職ごとに組員が名前を書いて投票して決めていた。これらの3役の任期は1期5年であった。

Darido自身は農家ではないが、農業に関してかれから聞いたことを示すと、農家グループ(Kelompok Tani)は、水利の作業と費用の徴収、作付け種と肥料・農薬の選定などを行う。とくに、農家グループは灌漑水利組織OPA(Organisasi Pemakai Air)の末端の組織を兼ねていて、それぞれの用水路の改修、用水路から田圃への引水作業なども行うとともに、水利費の徴収も行っている。水利費は、1ルバン(Luban=10m²)当たり50ルピアである。その他に、牛を飼っている農家のグループ(Kelompok Sapi)もある。農作物の米は、仲買商人(Pedagang)に売るのが一般的で、小さな農家では近所のワルン(Warung)で売ってもらったりする。村長は、地元の製糖工場と契約して役職田のほとんどでサトウキビを栽培している。田植えは、家族の他に近所のゴトン・ロヨン(Gotong Royong)で行う。稲刈りの際は、近隣の人が稲刈り作業にやってきて、作業をした人にはその人が収穫した稲の7分の1が現物で渡される。バントゥル県の東の山間地に広がるグヌンキドゥル県は、カルスト台地が多くを占めて耕地に恵まれないため、牛や山羊などの家畜を飼育する農家が多い。グヌンキドゥル県の牛を飼っている農家は、バントゥル県内の農家の稲刈りが終

わった田圃に来て、牛の餌用に任意で稲藁を集めて、無償で運び出していく。ただし、乾期作に栽培されるトウモロコシや落花生は、栽培農家が収穫後のトウモロコシの茎や落花生の蔓草を飼料として売る。

農家が農地を他の用途に転用するのは、一般には家族や身内のものによってである。農家は、基本的に農地は売らないで、商店や工場には20~30年の長期間で貸すのが普通である。いま住んでいる土地は1993年に宅地として購入したが、その時の地価は1ルバン当たり300,000ルピアであった。それが現在は1ルバン当たり3,000,000ルピアと10倍にも値上がりしている。現在のプレンプータン部落辺りの宅地地価は、1ルバン当たり600,000ルピアである。県内の西南部の地方では土地の面積を表す単位としてもうひとつ1ルー(Ru=14m²)が使われている。また、相続は、農地も含めて基本的に男も女も1対1で相続する。

《同席した調査助手 Fajar による上記 Darido の聴取メモ》

- ・稲の収穫労働力は、田の所有者の都合や判断により、もし田の所有者が気に入れば収穫労働力に認められる。それは、収穫時期になる前の仕事から調べられた。
- ・グヌンキドゥルからの収穫労働力の多数は、まず家畜の餌のための稲藁を得たいがためである。
- ・収穫された米は落とされ(脱穀され)、束ねられた稲藁はトラックに積まれる。
- ・1グループは普通8~10人である。
- ・トウモロコシか落花生の収穫のために収穫労働力として来た人も収穫の手伝いを除いて、トウモロコシや落花生の茎や蔓を得るためにはその代金を支払う。価格は土地の所有者との交渉次第である。
- ・土地の貸借期間は工場の利益のために20~30年である。

- ・自分が住んでいる土地の1ルバンの価格は300,000ルピア以上。1993年に購入した。
- ・相続は、男はSepikul、女はSegendong。

3. プレンブータン部落とRT第1組の組織

—2009年8月30日(日)(晴れ)の聴取—

今日の同行者は、人口政策研究所のアルバイト調査員で女性のVinaと、昨日から婚約者の父親の見舞いにジャカルタに行ったFajarの代わりに務めるDwi Yantoroである。VinaとDwiはともに地理学部の卒業生で、人口政策研究所のアルバイト調査員をしている。

9:00少し前に宿泊先のGadjah Mada University Club (GMUC)を出発し、最初にバンドゥル県庁舎のある県の中心に向かうバンドゥル道路を通してセワン郡(Kecamatan Sewon)プンドヲハルジョ村(Desa Pendwoharjo)に向かった。バンドゥル道路は、チャンデン村に行く時に利用するParangtritis道路が王宮の東側を南に向かう道路であるのに対して、これと平行して王宮の西側を南に向かう道路で、ジョクジャカルタからインド洋沿いに西に向かう幹線道路である。GMUCから約12kmの道程で、最初に訪問するプンドヲハルジョ村バンドゥン部落(Dukuh Bandung)に住むHartantの家に着く。ここは、バンドゥル県庁のあるバンドゥル町の手前にあり、王宮から7km程のところにある。

バンドゥン部落は、1984年以来黒柳が通い続けている部落のひとつである。Hartantは1967年にこの部落で生まれ育ち、父は中学校教員を勤めていた兼業農家であった。かれは、長男で下に弟と妹がおり、ガジャマダ大学社会政治科学部の卒業生で、41歳になる。黒柳がこの部落に住んで参与調査をした1989年には、かれは社会政治科学部に入学した年で、黒柳のよき調査協力者のひとりで、資料作りや部落地図作りなど大変お世話に

なった。当時、かれは部落の青年団長を務めるとともに、村の連合青年団の役員にも就いていて、学業と両立させていた。現在、かれはイスラム宗教組織のムハマディヤがジョクジャカルタ市内に経営する幼稚園のひとつに管理職として勤務しており、2歳下の妻も同組織の経営する高等学校の教員として勤務している。5年ほど前に、両親の家の北側にある親の田圃の一角を埋め立てて新居を建て、そこに妻と2人の子どもと住んでいる。父はすでに定年になっているが、両親は健在で、そこには弟と妹と一緒に住んでいる。そのかれの家に、今日は日曜日で午前中は在宅しているとのことであったので、26日(水)の夕方に聴き取りで伺った際に頼んでおいた部落の世帯の移動に関する資料をとりて伺ったのである。20分ほどで用件を済ませ、バンドゥン部落から南東に約8kmの道程を行ったところにある今日の主要訪問先のチャンデン村プレンプブータン部落に向かう。

1. プレンブータン部落RT第1組長 Sudarmaji 宅での聴取 (10:30~13:00)

最初のインフォーマントとして予定していたRT第1組の組長(Ketua Rukun Tetangga) Sudarmajiの家に10:30に到着した。かれは1943年生まれの66歳で、現在は恩給生活者であるので、予想通り在宅していて、早速われわれは部屋の左側にソファと椅子が置かれた居間兼客間に迎え入れられた。日曜日で仕事に出ないためか、玄関脇のテラスではダサ・ウスマのアリサン(Arisan)を終えたあとも6~7名の女性が残ってお喋りをしていた。アリサンはさしずめ日本の頼母子講のようなものである。従って、質問に答えてくれたのはSudarmaji夫婦の他に居合わせたダサ・ウスマのアリサンのあとに残っていた女性たちである。そこで、最初に女性の参加する婦人会組織について尋ねた。

(1) プレンブータン部落の婦人会PKK

3役は、会長(Ketua)、書記(Sekretaris)、そ

れと会計 (Bendahara) である。会長は部落長の妻が就任することになっていて、書記と会計は選出され、任期は3年で再選は問わない。活動領域は5つの分科会、すなわち①会員の相互親睦分科会 (Seksi Hubungan Musyawarah : Humas)、②保健衛生分科会 (Seksi Kesehatan)、③教育分科会 (Seksi Pendidikan)、④農業分科会 (Seksi Pertanian)、そして⑤女性のエンパワーメント分科会 (Seksi Pemberdayaan Perempuan) に分かれている。毎月6日に会長の家、すなわち部落長 (部落長は Sumardiyono で、1967年3月16日生まれの42歳、高卒。婦人会長の妻 Endang Sulastri は1968年7月16日生まれの41歳で、大卒のビジネスウーマン Wirausaha。) の家で14:00から2時間前後の集会が開かれる。

毎月の集会で必ず行われる行事は、アリサンとシンパン・ピンジャム (Simpan Pinjam) である。プレンブータン部落の総世帯数と総人口は、2006年5月の中部地震直後の6月初めにまとめられた世帯調査票によれば275世帯、790人であるが、アリサンとシンパン・ピンジャムに参加しているのはそれぞれ約100名である。もちろん、そのほとんどの人は両方に参加している人である。アリサンは、毎回集会の時に各人が5,000ルピアずつ持ち寄り、その金をその時に自分の番号を引き当てた2人が受け取る。参加者は、すでに番号が当たって金を受け取っている人も含めて、必ず毎回この5,000ルピアの額を持ち寄らなければならない。各人はあらかじめ自分の決められた番号を持っていて、参加者全員の番号を書いた紙片が入れられた箱から毎回2枚ずつ番号札が外に引き出され、その番号の2人がその日の金を受け取る。1回に1人が受け取る金額は約250,000ルピアである。箱に入れられた番号札の紙片が全部引き出されたところで、全員が1回お金を受け取り一巡するのである。

他方、シンパン・ピンジャムは、参加者が1口5,000ルピアで金を持ち寄り、その出資金を原資

としてお金を必要としている人に有利子で貸し付けるのである。シンパン・ピンジャムの原資の調達方法にはいろいろあるが、この場合は参加者が直接出資する方法をとっている。1回に借りられる期間は5ヶ月で、利子は10%である。借りた人は、返済する時に元本に10%の利子を付けて返すのである。母親たちが、自分の判断で出資をしたり借金をしたりするのであるが、そのうち金を借りる主な理由は2つである。すなわち、①子どもの教育費、具体的には子どもの通学に必要な制服や体操服、鞆や文房具などの購入に充てる費用、それと②参加者自身の仕事に必要なささやかな運転資金、たとえば市場 (Pasar) に出店したり行商をしたりして日銭を稼いでいる女性が少なくないが、彼女たちが商品や材料を調達する資金を借りる場合である。これらの経理の事務は、婦人会の会計係が担当している。なお、出資者へは配当が行われるが、その内容や方法については未確認である。

(2) プレンブータン部落のポスヤンドゥー

プレンブータン部落のポスヤンドゥー (Pos Pelayanan Terpadu : Posyandu) は、RT第3、4、5組で構成されるバラ1 (Mawar 1) と、RT第1、2組で構成されるバラ2 (Mawar 2) の2つの組織に分かれて活動している。活動自体は両者とも同じように行っているが、比較的部落が大きいため活動の拠点となるポストを2箇所に分けているのである。このボランティア活動に参加している人は、婦人会参加者の半分ぐらいの約50人である。このうち、バラ1とバラ2の参加者のなかからそれぞれ5人が、地域保険センターのプスクスマス (Puskesmas : Pusat Kesehatan Masyarakat) などでのこの活動のための研修を受けている。研修は、この他にも州保健局 (Dinas Kesehatan) や、たとえばJICAなどの支援を受けたNGOのプログラムによっても行われており、さらに大学生の必修となっている農村滞在実習 (KKN : Kuliah Kerja Nyata) の際の学生との

話し合いなども利用されている。これらの研修を受けた人はカデル（Kader）と呼ばれている。ボランティア活動は毎月8日に行われ、上記のボランティアの女性たちが、バラ1とバラ2の活動のサービス拠点になる家で、それぞれの地区内から親などに連れられて検診に集まってくる5歳までの子どもたちの体重、身長、頭囲、上腕の太さなどを測定し、その結果をいわば母子手帳のような子どもの個人カードKMS（Kartu Menuju Sehat）に記入していく。その後で、女性たちが子どもの健康や栄養を考慮して用意したご飯、野菜、魚肉、牛乳、果物などを子どもたちに食べさせる（このために必要な経費の出所等については未確認）。

家族計画の普及のための奉仕活動（Pelayanan Keluarga Berencana）もしている。その主な活動は、①家族計画（KB：Keluarga Berencana）、②5歳児までの乳幼児の健康（Kesehatan Balita：Kesehatan bawah Lima Tahun）、③妊婦の健康（Kesehatan Ibu Hamil）、④60歳以上の高齢者の健康、に関する支援活動などである。避妊のために最も利用されているのは女性が使用するピルとIUDで、それに比べてコンドームの利用は非常に少ない。

地域保健センターのプスクスマス（Puskesmas：Pusat Kesehatan Masyarakat）は、4ヶ村からなるジュティス郡内にはジュティス1とジュティス2をはじめ全部で5箇所ある。そのうちの一つはチャンデン村にあり、ここには女性の小児科医師、看護師（Perawat）、それと助産婦（Bidan）が常駐している。

2006年5月27日の朝7時54分（現地時間）に発生した中部ジャワ地震によって、パントゥル県内では4,143人が死亡し、71,763戸が全壊、71,372戸が半壊して未曾有の被害を受けた。この時チャンデン村では251人が死亡し、3,008戸が全壊、116戸が半壊して、ジュティス郡内4ヶ村のなかで最も被害の割合が大きかった。この大

地震被災後に、ポスマンドゥーは社会的弱者である高齢者と乳幼児を主な対象とした救済・支援活動にかかわった。まず、被災で体調を崩す人が多出し、その人たちに服用薬等の円滑な支給と使用方法を周知するために村落薬剤センター（POD：Pos Obat Desa）が設置され、その支援活動をした。また、高齢者については、緊急支援団体YEU（Yayasan Emergency Unit）の資金援助を受けて、2006年9月から翌年の9月まで1年間にわたって、60歳以上の老人を対象に1人当たり計4,000ルピアの現金の給付と牛乳とパンの配給をした。さらに、多くの被災者が住環境のよくないテントやシェルター生活をしていたうえに、親たちが災害復旧に追われていたために、3歳以下の乳幼児を対象に、部落長の家で週3回託児所を開いた。託児は朝の8時から10時までの2時間で、カデルがこれにあたった。

(3) プレンブータン部落 RT 第1組のダサ・ウイスマ

RT 第1組は、プレブータン部落のなかで最も世帯数が多い組で、合計78世帯、人口215人である（前掲表2参照）。しかし、Sudarmaji 組長の奥さんの話では、世帯数は63世帯で、ダサ・ウイスマに参加している女性はほぼ50人とのことである。ダサ・ウイスマはいわば部落婦人会のRT単位の下部組織を兼ねているが、RT 第1組のダサ・ウイスマは、世帯数が多いために2つに分けて組織されていて、それぞれに影絵ワヤン（Wayang）からとった名前が付けられている。毎週日曜日の午前にダサ・ウイスマの集まりがもたれるが、最も日常化した活動はアリサンである。ここでは、アリサンの際に各自が持ち寄る金額は3,000ルピアである。

(4) プレンブータン部落 RT 第1組青年団

プレブータン RT 第1組の青年団（Karang Taruna）は、部落青年団の下部組織となってもいるが、PMBTS（Persatuan Muda-Mudi Bakti Taruna Seraten スラテン地区男女青年奉仕団体）

と呼ばれている。SeratenはRT第1組とRT第2組がある地区の古くからのカンポン(Kampung)の名前である。三役の会長、書記、会計が決められており、その他に部会としては①会員の相互親睦分科会(Seksi Hubungan Musyawarah: Humas)と、②ボート漕ぎ競争部会(Olahraga Dayung)がある。毎年バントゥル県記念日の7月12日とインドネシア独立記念日の8月17日の2回、隣のRT第2組と近くのオバック川の堰にできたダム湖で手漕ぎ船競争をする行事が行われており、後者の部会はその活動をするためのものである。

青年団の重要な活動に、Sinoman(相互扶助)と呼ばれる結婚式と葬式の時の来客接待などの手伝いがあり、その時には必ず青年団で決めたユニフォームを着用する。結婚式の時は、男女とも上は赤の長袖バティックシャツ、下は男子は黒のスポン、女子は黒のスカートを着る。また、葬式の時は、男子は上は黒のTシャツ、下は黒のスポンを着用することになっているが、女子は赤色等の派手な色合いのものでなければ自由である。

もう一つ青年団のルーティーン化している活動に、各世帯からの電気料金の徴収がある。この地区の家々が農村電化プログラムによって電気を引くようになったのは、1990年代初期の頃である。電気料金の徴収は、インドネシア電力会社(PLN: Perusahaan Listrik Negara)から電気料金徴収作業の委託を受けて、ジュティス郡村落協同組合(KUD: Koperasi Unit Desa)が電気使用量の検針作業を行って各世帯の料金表を作成し、これをもとに青年団が毎月17日に各戸を回ってその月の電気料金を徴収するのである。この辺では、1世帯の1ヶ月平均電気使用料金は約30,000ルピアである。青年団は、この徴収作業で、KUDから1世帯当たり1,000ルピアの還付金を受け、これを団の活動資金の大きな原資にしている。その他に、毎週日曜日の朝に空手(Silat)の練習をしている。

まだ聴きたいこと、もっと厳密に内容を確認したいことなど多々あったが、すでに2時間半を超えて聴き取りに応じてくれた人たちにも迷惑をかけるので、聴き取りを終了する。そこで、RT第1組長Sudarmaji宅から250mほど離れた西隣のRT第2組の組長宅を訪ねる。すでに13:00を回っていたが、組長のSubagyohadiが在宅していたので、早速インタビューをさせてもらった。

2. プレンブータン部落RT第2組長Subagyohadiの聴き取り(13:10~14:10)

RT第2組長のSubagyohadiは、1968年5月30日生まれの41歳で、専業農家である。かれは、また1997年からプレンプータン部落第1農家グループ長(Ketua Kelompok Tani)を兼職している。

(1) プレンブータン部落第1農家グループ

プレンプータン部落には農家グループが2つ組織されていて、第1農家グループはかつてのカンポン・スラテン(Kampung Seraten)にあるRT第1、2組の農家が、また第2農家グループはRT第3、4、5組の農家が参加している。農家グループの組織は1950年頃に作られた。このうち、Subagyohadiがグループ長をしている第1農家グループには40人が参加し、3役には、長はSubagyohadi(高卒の41歳)、書記はGiyarta(高卒の45歳)、会計はMusiran(小卒の49歳)がそれぞれ選ばれている。3役がRT第2組から選ばれているのは、RT第2組は農地を所有している自作農家が多いことと関係していると思われる。役員任期は1期5年で、再任の制限はない。3役の選出は、総会の席で立候補者のなかから3役選出支持の挙手が多かった順に長、書記、会計が選出される。Subagyohadiは現在3期目の長に就いている。会合は、兄の家の集会所(Pendopo)を利用して、西洋暦の7曜とジャワ暦の5曜を組み合わせて35日ごとに開催される。

(2) 農業生産

1年間の農業生産のパターンは、米を8月末～12月と1月～4月の間で2作、乾期作のPalawijaを5月～8月の間で1作するのが一般的なパターンである。この地区は、灌漑用水源のオパック川に面していて水利に恵まれ、稲作中心の農業である。整然と短冊形に整地された田圃は、1枚が1,200 m²の面積が基本形となっていた。灌漑用水路から細い水路が田圃の間に延びていて、それぞれの田圃に引水できるように基盤整備されている。

作付けされている稲種は、Cisadane、Cihera等もあるが、一番作付けされているのはIR64である。IR64は、110～115日ぐらいの日数で収穫できるうえ、稲の幹が丈夫である。収量は、10 m²当たり精米 (Beras) で4 kg、すなわち10アール当たり400 kgである。農家からの売値は、精米で1 kg当たり4,750ルピアぐらいである。また、農家からの米の買い取り価格が、精米1 kg当たり仲買人 (Tengkelak) が1,800ルピアであるのに対して、村落協同組合 (KUD : Koperasi Unit Desa) が1,200ルピアであるため、農家が精米で売れる場合はほとんど仲買人に売り渡す。農家は、精米や精米を売る他に、籾殻も稲藁も売る。稲藁の売値は、トラック1台当たり50,000ルピア～100,000ルピアぐらいである。グヌンキドル県の牛の飼育農家には、牛の飼料に稲藁をトラック1台当たり150,000ルピア、収穫後のトウモロコシの茎を1束 (10本) 5,000ルピアで売る。

乾期作のPalawijaは、これまではトウモロコシ (Jagung)、大豆 (Kacang Kedelai)、落花生 (Kacang Tanah) が最も一般的な作物であったが、最近は野菜など商品性の高い作物を導入する農家が増えている。たとえば、田圃の周囲に一定の幅で野菜を作付けし、中央に背丈の長いトウモロコシを作付けするとか、田圃の真ん中に境を作り、引水用の水路のある上の側に野菜を作付けし、反対の下の側にトウモロコシなどのPalawijaを

作付けする。Subagyohadiグループ長の家では、近年高く売れる (4,000ルピア/kg) メロンの作付けをしている。1年間の作付け順序は、まず9月～12月に稲を1作し、その後田の土を畝上げして畝の間を掘り下げて水はけをよくし、1月～8月の間に畝の上でメロンを2回作付けし、さらにトマトを1作し、そして稲作に戻るのである。かれのところの経営面積は3,000 m²で、うち1,000 m²が自作地、2,000 m²が小作地である。かれは、このメロン栽培を2,000 m²の田圃で行っており、畝挙げ作業や、メロンなどの栽培管理には手間がかかるので、日当30,000ルピアで1人を雇っている。メロンなどの農産物は、自分でジョクジャカルタ市の北にあるGanping青果市場に持って行って売る。

水利費は、10 m²当たり25ルピア/年である。すなわち10a当たりの水利費は年額2,500ルピアになるが、2006年の地震被災後、この農家グループでは水利費の支払いを免除されている。この部落から離れたところの田を耕作している人は、そこの分の水利費は払っている。

すでに1時間をオーバーしたため、農業について別な機会に話を伺いに再訪したい旨を伝え、14:10過ぎにインタビューを切り上げて帰路に就いた。

4. チャンデン村の行政組織

—2010年8月27日 (金) (晴れ) 聴取—

チャンデン村村長 Supanto と書記 Mashuci の聴取 (10:30～11:30)

LPMD (Lembaga Pemberdayaan Masyarakat Desa 村民権限付与委員会) は各15部落の有名人 (名望家) (Tokoh Masyarakat) から選ばれる。委員は全部で22人。

現在のBPDの議員は2012年まで機能する。議員の選挙はそれぞれの13選挙区で行われ、第1回の選挙は2002年12月に実施された。議長は

最も声が多かった人が選ばれる。近年あった BPD の選挙のやり方の変更に従っており、その新しいやり方は、部落から村へ代表を申請する (menurut perda terbaru ada pergantian mekanisme pemilihan BPD, yaitu pengajuan perwakilan dari pedukuhan ke desa)。

5. プレンブータン部落第1組

—2010年8月28日(土)(晴れ)聴取—

プレブータン部落 RT 第1組長 Sudarmaji 宅
で組長夫婦の聴取 (9:30~11:30)

第1組長宅の裏で、水冷発動機をエンジンにした3輪トラックの精米機で精米をしていた業者に聴取。料金は、粳 (Gabah) 1kg の精米代が200ルピア。100kg の粳を精米すると60kg の精米 (Beras) になり、精米代は20,000ルピアになる。粳1kg を精米すると600g (6on) に減り、40% が粳。農家が売り渡す米の価格は1kg 当たり5,000ルピア。

・屋敷地 Pekarangan はだいたい家のある土地。Kebun は家から離れたところにある所有地で、普通は固く締った土地の園地 (農園)。

・裏にある Kebun 100m² の面積の収穫について。この Kebun (Pekarangan) は夫の相続分で、自分の相続した Pekarangan は、同じ郡内の別の村にあり、面積は夫の2倍ある。裏の Kubun には椰子 (Kelapa) が2本、バナナ (Pisan) が10本、マンゴー (Mangga) が2本ある。Kelapa は実が付いてから1月で黄色になり、収穫できる。1個1,000ルピアで Warung で売れるが、ほとんどは自家消費する。1本で最高年に100個ぐらい採れる。いまは、自家消費のために Kelapa の油を自宅では作らない。手間がかかるから、現在、食用油は全て購入している。

園地の収穫物が時々売られて、自分の利益 (必要) のために使われる。1年の収穫は、椰子200個で、1個の値段は1,000ルピア。Warung に売

られる。野菜の調理や魚あるいは肉料理に必要なもの。

バナナは、そのまま食べたり、揚げたりされる。バナナの種類は、Pisang Kapok、Pisang Ambon 等がある。バナナの販売価格は1kg 2,000ルピアで、まだ熟さないうちに売られる。成熟した場合の価格は1房10,000ルピアである。

・一般に屋敷の作物は、マンゴー、ランブータン (Rambutan)、ムリンジョ (Melinjo)、Munggur (木の名前)、パパイヤ等。以前、村では各戸の Pekarangan に4種類の果樹を植えるように奨励し、苗木や種子などを配って援助した。村からの苗木・種子の援助は、1世帯あたり4種類の作物まで受けられたが、全部は受けられなかった。村の奨励種は、椰子、マンゴー、ランブータン、ムリンジョで、収入の多様化をはかるため。椰子の木はすでに古くなって実を付けなくなれば切り倒され、幹は家造りの材料に使われる。バナナの木は実がなるとそのあと根元から切り倒す。切った幹から若木が生えてきて、1年以上かかって成長する。バナナは房が着くと約4ヶ月で黄色くなり、収穫できるようになる。敷地内の木で家の建築材に向くのはジャティ (Jati) (チークの木) である。

・組長宅は田を所有していない。村役場の Keamanan 係の Suroso の役職田から、300ルバンと400ルバンの田2枚を借り、Maro 小作をしている。収穫した粳米を Suroso と半分ずつ分ける。自分はそのなかから種粳代、肥料代、農薬代、手間代を負担する。400ルバンの方の田はそのまま田で Pedagan に売る。その代金収入は5,000,000ルピアで、Suroso と折半する。1ルバン=10m²。Tanah Kas Desa の小作料は、100ルバンで年額500,000ルピア。

・組長宅の南隣の Surepno はジョクジャカルタ国立大学 (UNY: Universitas Negeri Yogyakarta, 旧 IKIP Yogyakarta) に勤務し、専攻は法学。自宅の池で淡水魚の Gurame を飼って、収入の足しに

している。Gurame は1年で4オン(1 on=100 g)に成長、1年で売る。売値は1 kg 当たり 100,000 ルピア。餌代は1 kg 当たり 7,500 ルピアである。
・一般の手間賃は、1日当たり (8:00~15:00) 大工 (Tukang Kayu) が 40,000~50,000 ルピア、石工 (Tukang Batu) が 35,000~40,000 ルピア、材料運び (Laten Tukang ?) は 25,000~30,000 ルピア。また、農業労働者 (Buruh Tani) は1日当たり (8:00~11:00 と 13:00~16:00) 20,000 ルピア。

・Canden 村は、Desa Suren Wetan (Suren はドリアンの木、Wetan は東の意) と Desa Pulo Kadang (Pulo は島、Kadang は親類の意) が統合してできた。

・Posyandu (Pos Pelayanan Terpadu) の Kader の職務は5つのサービスに分かれている。

- ① Pendaftaran 登録・申し込み
- ② Penimbangan 計量・測定
- ③ Penyuluhan 診察・相談
- ④ Pengobatan 施薬・調薬
- ⑤ Pemberian Makanan Tambahan 食べ物の補給

Kader は PKK の会員のなかから選ばれる。Kader は Puskesmas (Pusat Kesehatan Masyarakat) から診察情報を与えられる。プレンブータン部落のポスヤンドゥー (Pos Pelayanan Terpadu : Posyandu) の2つの組のうち、RT 第1、2組で構成されるバラ2 (Mawar 2) には Kader が合計6人いる。

Posyandu Lansia = Posyandu Lanjut Usia : 高齢者のポスヤンドゥー。

6. プレンブータン部落の組織

—2010年8月29日(日)(晴れ)聴取—

プレンブータン部落 RT 第1組長 Sudarmaji 宅での聴取 (9:30~11:30)

・田の草取りは、Gosrok を使って行う。田植え後

1週間で1回目、20日目で2回目の田の草取りをし、その間に1回施肥をする。Buruh Tani の1日当たり (7:00~11:00 と 13:00~16:00) の労賃は女 20,000~男 30,000 ルピア。

・RW はなくなったが RT はそのまま、現在も5つの RT である。部落における RT の再編はそれぞれの裁量に任されている。

・Siskamling について

RT1 と RT2 の Pos Kamling の場所は一緒に、その夜の宿番の家に集まる。宿番の家は順番に担当。両組で一晩に10~20人集まる。その夜の当番の人は、夜の8時過ぎ頃に各戸から金を集めて宿番の家に集まり、21:00~24:00頃まで詰める。宿番の家では、飲み物や茶とスナックなどの菓子を用意する。その費用は当番の家で負担し、その額は一晩で50,000~100,000ルピアぐらい。宿番の家に集まると、①集めてきた金を家ごとに金額を記入。各戸1晩100ルピアで、1月3,500ルピア。この金が Simpan Pinjam の原資になる。②本来なら夜警に回るが、そのまま雑談で過ごすことも多い。③その夜の当番のグループごとに Arisan を行う。額は5,000ルピア。④ Simpan Pinjam を行い、1回に最高20,000ルピアまで借りることができ、必ず3週間以内に返し、同じ人が続けては借りられない。

・Posyandu について

Chanden 村には全部で15部落があり、Plembutan 部落は5つの組に分かれている。Plembutan 部落の Posyandu は2つの組織に分かれ、1~2組と3~5組で各組織されている。Kader は、1~2組の Posyandu は6人、3~5組の Posyandu は7人で、全部で13人いる。Posyandu の役割は① Pendaftaran Anak Kecil 登録・申し込み、② Penimbangan 計量・測定、③ Penyuluhan 診察・相談、④ Pengobatan 施薬・調薬、⑤ Pemberian Makanan Tambahan 食べ物の補給。Kutua Posyandu が、PKK の会員から選んで Puskesmas で研修 (Penataran) を受けさせて

Puskesmas へ Kader を推薦する。ジャワ地震前までは皆が寄付金 Iuran として 500 ルピアを持ち寄って費用に充てていたが、地震後は Puskesmas が費用を負担している。Puskesmas からの費用は年間 300,000 ルピア。Posyandu の活動の日は毎月 8 日で、8:00~13:00 の間に組長の家で体重・頭の周囲・腕の周囲・身長を測定を行い、ご飯、砂糖、Tempe、卵、果物などを子どもに食べさせる。

・Paket A と Kelompok Pencapir について

場所は村役場で行われるが、村では地震以降は学校外教育の Paket A、B とも受けている人がいない。いまはテレビ、ラジオ、新聞などの視聴学習グループ Kelompok Pendengar、Pembaca dan Pemirsa はなく、Kelompok Petani になっている。

7. チャンデン村の行政組織および各種組織

—2010年8月30日(月)(晴れ)聴取—

チャンデン村村長 Supanto と行政係長 Suroso の聴取 (9:10~10:30)

村長 Lurah と部落長 Kepala Dukuh は当該住民の直接選挙で選出され、村落協議会 BPD の承認を要し、県 Kabupaten に推薦する。

もし、村役人に欠員が出たら、村政府は県に知らせ、県は候補に参加する人の一覧表を用意し、村で村役人候補者の一覧をつくる。職員の候補者は、村長が部落長と相談して選考し、村落協議会の承認を得て県に推薦する。県で筆記試験が行われ、成績が同じ場合には、村長に判断をしてもらう。県から村職員に辞令が交付される。

村役人のうち、Carik は国家公務員 PNS (Pegawai Negri Sipil) で、県が直接選考して任命する。Carik を含め村職員は定年が 60 歳である。村長を入れて村の職員 (Karyawan Desa) は 32 人である。定年になると、役職田 (Lungguh) の 1/5 を本人が死亡あるいは辞退するまで利用で

きる。村長選出は 25 歳、村役人就任は 21 歳以上である。

RW の制度は廃止されたが、RT は従来の部落と数に変更なく全部で 76 RT である。

Canden 村は、1946 年に Krakas、Suren、Gadunngan の旧 3 村が合併してできた。初代村長は Darmoredjo (1946~88)、第 2 代村長は Mujilan (1989~98)、第 3 代村長は H. S. Parjo, BA (1998~2007)、第 4 代の現村長は Supanto, SE (2008~14) である。現在の行政係長 (Pemerintahan) の Suroso は初代村長 Darmoredjo の 6 男で、1970 から村職員となった。現在の書記 Carik の Mashudi や Suroso は旧制度での採用のため定年が 64 歳である。ちなみに Suroso は現在 62 歳である。

8. チャンデン村の行政組織

—2010年8月31日(火)(晴れ)聴取—

チャンデン村村長 Supanto 等の聴取 (10:00~10:40)

《同席した調査助手 Fajar による聴取メモ》

LPMD (Lembaga Pemberdayaan Masyarakat Desa 村民権限付与委員会) の委員は 20 人で、基本は部落である。各部落から名望家、有能者が送られる。委員は、よく知られた社会の代表という保証されたリーダー。その機能は、開発、第一に物質的開発を計画するなかで村政府を助けることである。

LPMD は毎月共同活動が行われる。12 月に計画が立てられるが、11 月に部落で MUSRENBANG Dusun が行われる。各部落の Musrenbang Dusun が集められて、郡を通じて県に提出される MUSRENBANG Desa になる。LPMD の活動費は ADD (Alokasi Dana Desa untuk LPMD) からで、8,500,000 ルピアである。BPD は県から議員 (Kehormatan) への金があり、1 年間に 11 人に対して 9,000,000 ルピアである。

各村は、村の必要に応じて県からの援助基金 ADD を得る。定年の村役人は定年援助を得る。25 年以上働いた人のために、死亡するまで現職の時に与えられていた役職田の 1/8 を与えられる。この規定は県から定められている。もし村が水田を持っていなかったら、Carik には国家公務員 PNS (Pengawai Negri Sipil) II ランクの、村長には PNS II C のランクの給料が支払われる。

9. チャンデン村村落協議会とプレンブータン部落

—2011 年 3 月 5 日 (土) (雲) 聴取—

1. プレンブータン部落長 Sumardiyono 宅での聴取 (10:00~11:30)

部落長の Sumardiyono は昨年 11 月に隣の 4 組に新たに家を借りて移り住んでいた。

《同席した調査助手 Sumini による聴取メモ》

新体制では、選挙に統一性の原理がある。村落協議会 BPD では、社会の実態が多く反映されていない。これに対して LPMD では、若者に関したこと、隣組に関したことで、社会がより多く反映されている。

BPD の実施上の妨げになっていることは、①チェックとバランスの機能が最大限に機能していないこと (機能は、監視や管理であって、村長を倒す権利は持っていない)、②村政府が BPD によってコントロールされること、③ BPD 本来の機能が最大に生かされていないこと、④議員が、自分の考えを住民の代表のように置くこと、などである。

社会的に評価されている団体は、Karang Taruna, PKK, LPMD。社会は必要であれば他の組織を作ることができる。村の政府 (Pemerintahan Desa) は、村長と BPD である。自治システムにおける変化の影響は、①社会の監視 (たとえば汚職で辞職した Pendowoharjo の村長)、②社会の実情がより反映されるようになった、③社会が、開発の演技者として演じるための機会が広がったこと、などである。

Can den 村の村長は Supanto, SE. (Sarjana Ekonomi) で 3 年目。村長の任期は 6 年。Jayan 部落は Samino が部落長だったが、死亡したため Saryanto に代わった。

選挙について、村の選挙は村長と部落長についてだけである。Sekretaris/Carik は 2016 年から

表 5 チャンデン村の現在の BPD の議員構成

(職位)	(名前)	(住所)	(履歴・職業)
1. 議長 ketua BPD	Tohayadi	Ngidikan 部落	前 Bantul 県の DPRD の書記
2. 副議長 wakil ketua	Basar	Gadungan kepuh	SMP Bantul の教員
3. 書記 sekretaris	Drs. Sunarjo	Jayan	
4. 議員 anggota	Drs. Ponijan	Pulokadang	Dosen UIN (Universitas Islam Negri)
5. 議員 anggota	Kahno	Kralas	Guru SD Bantul
6. 議員 anggota	Subroto	Plembutan	Suzuki オートバイ販売店運転手
7. 議員 anggota	Rajiman	Suren Wetan	印刷会社勤務
8. 議員 anggota	Buchori	Kiringan	
9. 議員 anggota	Sudaryanto	Kiringan	ホテルの守衛
10. 議員 anggota	Sonhaji	Gadungan Pasar	Guru agama SD Bantul
11. 議員 anggota	Husen Yahyo	Suren Kulon	イスラム教の識者
12. 議員 anggota	Supriyono	Beran	Puskesmas 職員
(12 番は 2009 年から Beran 部落長に就任し、Sugi に代わって現在に至る。)			
13. BPD 書記	Sunaryo	Can den	前 BAPPEDA Bantul に勤務

国家公務員 (PNS: Pegawai Negri Sipil) になる。部落長の任期は60歳になるまでで、生年月日による。次の3つによって部落長をやめさせることができる。①懲戒、②停職(休職)、③退職。職務の達成された成果がBPDによって評価される。部落長の達成した成果の評価は1年に1回行われる(部落長の責任はBPDと社会に対して負う)。村長も同様である。

BPDは10年に1回選挙される。BPDは社会から議員を得る。メカニズムは地方条例によって異なる。人びとの親和性は友情の結びつきによる。

上記表5のBPDの議員は2002年に選出された。現在のBPD議員の任期は10年のまま実施されており、次の選挙は2012年である。村長の任期は以前は10年だったが、2004年の改正地方行政法によって変更され6年になった。Panitia 9(9人委員会)は、村と部落の選挙組織の役割を担い、村長、BPD、LPMDからの委員で構成される。上記のBPD議員は、農地を所有している農民である。登録の手続きについては、条件(資格)が9人委員会で確定され、最低6ヶ月以上居住し、登録の権利のある人である。以前は最低100人の住民の支持数であった。最低の村長立候補者数は3人で、それに立候補者が達しない場合には、候補者数が達するまで先延ばしする。以前のやり方は、もし候補者が2人でも選挙が行われた。以前の規則では、50%以上の支持がなければ当選できなかったが、現在は25%以上の支持があれば当選できる。それは有権者人口が増えたからである。

BPDの日常活動は、月1回議会があり、アリスンを行い、議会にかけられた問題について審議する。BPDの費用は、村からの予算による。BPDの議員手当は、毎月ないし3ヶ月に1回受け取る。月額300,000ルピア。Bantul県では平均月額が州内第2位の400,000ルピアで、Kulon Progo県では月額が州内第1位の900,000ルピアである。第3位はSleman県で、第4位はGunung Kidul県となっている。BPD議員の手当のメカニズム

は村の財政力によって異なる。村の手当支払いに充てられるのは、役職田や村の被雇用者の手当に使われる土地(Bengkong)による。また、役職田のような土地を除くと、手当支払いに充てられるのは給料(Gaji Uang)である。

2. チャンデン村村落協議会書記 Sunaryo 宅での聴取 (12:30~14:00)

Sunaryo 宅を訪ねて村落協議会 BPD 等について質問する。Sunaryo はバントル県内の BPD 書記会の会長 (Ketua Paguyuban Sekretaris BPD) をしている。

《出席した調査助手 Sumini による聴取メモ》

村の政治 (Pemerintahan Desa) は村長と村落協議会 (BPD) から成り立っている。村政府 (Pemerintah Desa) は、村長、村書記 (Sekretaris Deasa)、それとその他の者からなっている。

従来の問題は次のようなことである。① BPD と村長との関係が対立して調和を欠いていること、② BPD の実施は改正された 2004 年地方行政法の任期 6 年の規則に従わず、選出された当時のままの 10 年の任期が実施されていること、である。

2011 年 3 月 27 日に、新バージョンの 2004 年地方行政法 (Undang-Undang No24 Tahun 2004) による BPD の選挙の実施計画を審議する会議が行われた。

旧バージョンの 1999 年地方行政法による BPD (Badan Perwakilan Desa) では、①任期は 10 年 (2002~2012)、②議員の最大数は 13 人で、選挙の過程は普通選挙による、③役割は村長の実施したことに対して監視すること、④村長は村議会に対して責任を負って回答することを定めていた。他方、新バージョンによる BPD (Badan Permusyawaratan Desa) では、①村長は郡長を通して県知事に責任を負って回答することを定め、② BPD は村長を評価したり懲らしめたりする権利を持たない。選挙の過程については、③部

落が選挙の基本社会となって選挙区を形成し（住民数による）、BPDの議員は最大で11人、最少で6人、そのあと選出された議員で議長を選出する。④任期は6年である。⑤旧バージョンでは3つの委員会、A. 行政委員会、B. 開発委員会、C. 社会委員会が構成され、これらは国の形式に従ったもので、就任は最大2回で、その後の再選はできない。BPDの完全な会議が開かれる時の形式は、村長、BPD議長、立法職員、行政職員が同席する。

BPDは、最終会議の段階（村落条例決定）では、①普通の文書、活動計画の審議、②予算に関する審議議論、③普通の判断（決定のプロセス）をして、村に伝えることを文書で示す。これに対して村は、議論し、文書による回答を作りBPDに届ける。

会議（Rapat）の結果について、会議の通知は、新バージョンの場合はBPD議長と村長によって署名され、旧バージョンの場合はBPD議長によって署名される。

現村長のSupantoの任期は、2008～2014年である。

規則（制限）はまさに新しい条例が当てはめられている。より多くはその肯定的なインパクトであるが、具体的には、たとえば①村は主体になったのであって客体ではない、②BPDと村長の関係はより調和のとれたものになる、③村は一層発展する、④社会の民主主義が抑制される、などである。

また、新しい条例によって、新しいメカニズムやシステムが適用され、ADD（Alokasi Dana Desa）が90,000,000ルピアから50,000,000ルピアへ減額され、その結果BPD議員のインセンティブも下がったこと、などである。

BPDの議会（Pertemuan）は通常月1回開かれ、その他の会議（Rapat）は、たとえば村から審議の申し出（村落条例作成・制定の計画）があった時である。BPDの評価システムは社会によって行われ、そのテクニックは選択である。BPD書記は

BPD議長の職務（KTU：Ketua Tata Usaha）を助けるのが役割。BPDの責任（Pertanggung Jawaban）のメカニズムは、①議会の成果については、フォーマルには責任はないが、直接社会に責任を負っており、②予算については、村を通じて政府に責任を負う。

開発のメカニズムは、①部落の開発計画の話し合い（会議）、②村の開発計画の話し合い、③郡の開発計画の話し合い、④県の開発計画の話し合い、⑤国の開発計画の話し合い、の順に進められる。

10. チャンデン村の村落行政組織

—2011年3月7日（月）（雲）聴取—

チャンデン村村長Supanto等の聴取（8：50～9：50）

《同席した調査助手Poppyによる聴取メモ》

基金・予算配分（Alokasi Dana）について

県からの交付金があり、その名前は村交付金（Alokasi Dana Desa：ADD）で、2011年の額は142,657,500ルピア。2011年の額は、2010年の額とほぼ同額。以前、190,000,000ルピア交付されるよう望んだが、実際はそうされなかった。ADDの内訳については、30%が村とBPD村落協議会の活動、たとえば役所の資産、備品、運営の費用に使われ、25%が村の団体（Lembaga Desa）の費用に使われ、45%が村落社会の振興・向上（Pemberdayaan Masyarakat）の費用に使われる。ADDの総額は、その村の等級（たとえば媒体あるいは残されたもの）による。もし残されたもの（事業）があれば額が増え、事業が進んでいけば額は少なくなる。村の道路開発については村の開発の話し合い（村落開発計画会議）を行う。→11の基本計画→優先基準→郡の開発計画→県における必要計画→道路を建設するかどうか決定される。村が道路を建設する資金がなくても、関係する側が建設するだろう（たとえば、公共事業PU：Pekerjaan Umum）。地方技術計画ユニット

(UPTD : Unit Pelaksana Teknis Daerah) (dibawah Dinas Pendidikan dan Pertanian 教育・農業地方事務所など)。村の貸与の農地 (Tanah Kas Desa) は、小作料をとる貸与農地 13 ha と役職田 40 ha の合計 53 ha あり、その小作料の 40% は建設費に、60% は村役人の給与の役職田に充てられる。

前バージョンの村落議会 BPD の職務には監視 (Pegawasan) があつたが、2004 年から BPD と村長はともに村を支える要素となり、村の条例の制定のために相互に話し合わなければならなくなった。BPD の役割は①立法 (Legislasi)、②予算 (Anggaran)、③監視 (Pengawasan)、である。BPD の協議事項は、村の法令を審議することである。それらは、村の開発の活動計画、開発の予算と村の経費 (APB Desa : Anggaran Pembangunan dan Belanja Desa)、村財政地 (Tanah Kas Desa) の管理、予算の見積もり、などである。その他に他の法令、例えば家屋と商店の建設、災害の防備、などについても加えられるが、これらは第一の協議議題ではなく追加的な議題である。

BPD と村長の対立について

以前には対立があつたが、すでに BPD は村落協議会 (Badan Permusyawaratan Desa) に変わり、対立は少なくなった。村の職員 (Pekerja/Pamong) 数はすでに十分である (不足していない)。村落行政は構造的に部落にまで及んでおり、運営において各係長は職員に支えられている。

職員の採用について

職員は村に求職を申し出 (最低の学歴は中学卒)、職員の地位は村長からの証明書 (SK : Surat Keterangan dari Desa) による。村は県知事に提案し、県知事の同意 (Persetujuan) がなければならない。

村長は BPD によって選ばれ、各係長と部落長は村長によって選ばれる。職員は村役場政府 (Pemerintahan Desa) によって選ばれる。

(付記)

本調査は、平成 19~22 年度科学研究費補助金 (基盤研究 A) 「東アジアにおける「地方的世界」の基層・動態・持続可能な発展に関する研究」(研究代表者 神戸大学大学院人文学研究科 教授 藤井 勝) によって実施されたもので、本聴取内容の報告はその研究成果の一部である。

本研究では、ジョクジャカルタ特別州 (Daerah Istimewa Yogyakarta) バントゥル県 (Kabupaten Bantul) 内での農村自治の比較をするためにジュティス郡 (Kecamatan Jetis) チャンデン村 (Desa Candan)、セワン郡 (Kecamatan Sewon) プンドヲハルジョ村 (Desa Pendowoharjo)、それとサンデン郡 (Kecamatan Sanden) ムルティガディン村 (Desa Murtigading) の 3 ケ村で調査を実施したが、本報告では紙幅の関係からそのうちのチャンデン村の例を取り上げた。

なお、「1979 年村落行政法」に代って制定された「1999 年地方行政法」については、上記の科学研究費による平成 22 年度の研究成果報告書『東南アジアにおける「地方的世界」の基層・動態・持続可能な発展に関する研究』(神戸大学人文学研究科 2011 年 3 月 327~345 頁) に詳述したので参照されたい。

くろやなぎ・はるお / 文化情報学部教授
E-mail : hkuro@sugiyama-u.ac.jp